

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-6

たまちいつくしまじんじゃ
田町巖島神社



昭和29年の田町河岸の風景

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物
------	--



小島新田公園内に残る旧社殿



写真提供：小串嘉男氏/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区大師駅前2-13-16 若宮八幡宮参集殿内
問い合わせ	若宮八幡宮
TEL	044-222-3206
FAX	044-233-3060
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya-5.htm (e-大師ネット/若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅から徒歩1分



基礎情報

■明治4年(1871)に大師の海での海苔養殖がはじまって以来、海苔の豊作と海難防止を祈願する海苔弁天として崇められた。御祭神は市杵嶋比売神(イツクシマヒメノカミ)。
 ■元々は田町河岸に祀られていた。田町河岸は現在の田町3丁目にあたり、海へと濡が続き、多くの海苔採り舟(ベカ舟)や機械船が往来しにぎわっていた。やがて海苔養殖が終焉し、川崎漁協は昭和48年(1973)4月に解散した。それによって巖島神社護持の後継者が途絶えるのを危惧した有志によって、昭和61年(1986)4月6日、若宮八幡宮参集殿郷土資料室内に遷座された。田町3丁目の小島新田公園内には旧社殿のみが今も残り、川崎の海苔養殖の記憶をとどめるためにも再びこの地に御神体を祀ることも望まれている。

由来・エピソード

■御神体は、伝教大師(最澄)の作と伝えられ、大黒天、多門天を従えた三座形式の弁天様が波のレリーフの上に座っている。その下に十五童子(二体は欠損)が戯れ、さらに馬や俵を積んだ舟、干両箱が飾られている。
 ■明治になると旧暦正月11日に例祭が執り行われるようになった。朝、別当寺である殿町の法榮寺に御神体を迎えに行きリヤカーに乗せて町内を一巡後、巖島神社に安置してお祭りを行った。田町河岸の水面上には笹竹を立て注連縄を張って御神酒が捧げられ、夕刻まで飲食をして楽しんだという。
 ■田町河岸では船による長十郎梨の出荷も盛んに行われた。

補足・その他

関連シート

- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (14-3) 法榮寺
- (15-1) 田町稻荷神社
- (15-2) 出来野巖島神社